

# 松山まちなか瓦版

NO. 6

発行 / 松山市中心市街地活性化協議会  
■松山商工会議所 TEL 089(941)4111  
■まちづくり松山 TEL 089(998)3533  
Mail m\_central2007@canpan.info  
発行日 / 2008年9月30日



# Qjoka



## 中心市街地活性化に向けて 民間の種まき事業が続々スタート

中心市街地活性化協議会も設立2年目の秋を迎えています。昨年、集中して行った協議会の組織づくりを基盤に中活エリア内の各地でさまざまな個別プロジェクトがスタートしています。今回はそれらの中から“お城下へ行こう。”をキーワードに活動をはじめたお城下松山を紹介します。

### 【昔も今も、松山の真ん中】お城下へ行こう。

松山の街なかをもっと元気で魅力的にするために、松山の中心部の豊かな環境を真剣に考え、地域ならではの魅力的な価値を創造し、磨きあげて輝かせるといった視点が重要と考えています。その第一歩として「お城下松山」という旗印のもと「なつかしい」を磨き「あたらしい」を動かすをキーワードとして、まちづくりを始めることとしました。坂の上の雲のセンターゾーンでもある中心部を、市民の多くの方に愛着と誇りに思える街に再生していく取り組みが「お城下」プロジェクトです。

このプロジェクトは、中心部にある企業や商店や飲食店、住民などがこの指とまれ方式で集まり、集客や防犯、清掃、広報などのまちづくり活動を地域総ぐるみで取り組んでいきます。是非、お城下へおいで下さい。

### なぜ?いま、お城下なのか?

松前町に超大型店SCが開店し、更に隣接する今治市にも大型SCが出店を予定しています。中心部と同じ規模の商業集積が郊外に出現。又、一方で、ラフォーレ原宿松山の閉館で、中央商店街の通行量にも影響が現われています。

中心市街地に関わる我々にとっては、市民の皆さんへ街の楽しさを提供していく必要があります。街を楽しむ要素は、気に入ったものを買物したり、美味しい食事をとったり、話題の映画を見たり、英会話などを学習したりするなど、趣味と実益を兼ねた様々な生活文化活動などです。そして、これらの楽しみを、歴史と文化にあふれた、先進的で上質に洗練された賑わいのある楽しいまちで提供していくことが求められています。

そこにある歴史や文化が自分たちのアイデンティティであり、それらをしっかりと表現し、集客にぎわいづくりをつなげていこうとしています。

みなさんのご意見をお待ちしております

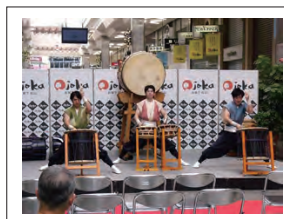
松山市中心市街地活性化基本計画がそこで暮らす人や働く人たちの思いに沿ったものとなるようみなさんのご意見をお待ちしています。

ホームページで松山市中心市街地活性化の情報を見ることができます

協議会関連の情報をはじめ、松山の中心市街地の活性化に関わるさまざまな情報を掲載しています。

<http://www.ehime-iinet.or.jp/machinaka/>

### お城下松山オープニングイベント



▲迫力満点の水軍太鼓が披露されました



▲早朝から「子ども映画まつり」に並ぶ親子連れ

こんな街を目指しています  
「お城下松山」まちづくり憲章

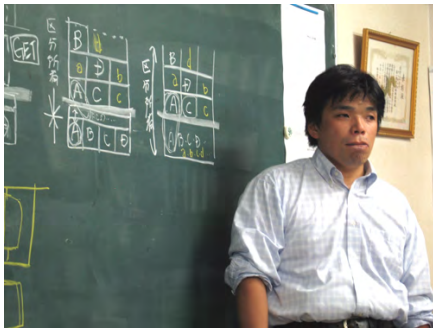
- ◆挑戦する街  
歴史ある街ならではの「なつかしさ」を大切に、さらに最新の流行や話題の「あたらしさ」を発信するまち
- ◆出会いのある街  
新しい出会いや集いがある、賑わいのあるまち
- ◆魅力ある街  
街を歩いていると楽しくなる、うれしくなる魅力あるまち
- ◆人に優しい街  
みんなで守り助け合い、安心安全で笑顔あふれるまち
- ◆環境を考える街  
公共交通や自転車の利用促進など、環境を考えたまち

Q. お城下松山は有限責任中間法人と聞きました。この有限責任中間法人っていう言葉、はじめて聞きましたが、一体どのような法人なのですか?

A. 法人を組織する構成メンバーに共通する利益を図ることを目的とし、尚かつ活動によって生まれた余剰金を構成員に配分することを目的としない団体のことを言います。お城下松山は、松山の街なかをもっと元気に魅力的にするために有志が集まってできた法人です。

[m\\_central2007@canpan.info](mailto:m_central2007@canpan.info)

松山まちなか人



# まちづくりは「風」

微風だって逆風だっていい。  
帆の角度を変えることで斜めに進むことができる。  
「今こっちの方角からこんな風が吹いています」  
そんな情報をお知らせするのがタウンマネージャーの仕事です。



天野弘章さん (有限会社ケース主任研究員/一級建築士)

昭和47年9月22日大阪出身  
大阪工業大学を卒業後、神戸の震災復興に関わる再開発事業等を担当。その後、住民主体のまちづくりの事業を各地で実施する。平成20年度より松山市中心市街地活性化協議会のタウンマネージャーとして来松。

大阪から仕事の度に来松されている天野さん、どのくらいのペースでいらっしゃっているのですか？

現在のところ、2週間に1回程度のペースで来ています。松山のまち更新に向けた掘り起こし作業の真っ最中で、今後、目標が明確になってくると、もっと頻繁に寄せてもらうようになると思います。

天野さんは松山という街にどのような印象を持っていましたか？

まず、最初に松山での仕事の話しを頂いた時に「なぜ、松山で中心市街地の活性化が必要なの？」と思いました。それほど、松山は他の都市から比べると元気な街で、有名な地域です。そんな松山に新しい中活の動きがあること自体に驚きました。しかし、実際に来ているのを見ていくと、確かに今、松山で中活が動き始めた理由がわかるようになりました。

「なぜ、今、松山に中活が必要なのか？」教えてください。

さっきも言ったように松山の街は「コンパクトで元気な街」として高い評価を得ています。その評価の源は、街がむちゃくちゃになっていないということ。最近になって郊外に大きなショッピングセンターが出来ましたが、都市の機能が散乱せず、街の中心に人が集まる仕組みが残っています。それは、松山市民が暮らしの中で守ってきたものですが、次の時代を考えた時に、このままでは、守り続けることができない状況にきているのではないかと思います。街の体裁が崩れていないだけに、小さなほころびが、大きなダメージにつながる危険性も大きい。そんな地域の状況を実際に松山に来て、松山の街を見て、松山の人にとって感じています。

松山の街が元気のない街になってしまう、今、そんな危機的な状況、瀬戸際に立っているということですか？

危機と言えば危機かもしれませんが、見方を変えればそれは新しい街へ生まれ変わるチャンスかもしれません。日本だけではなく世界レベルで経済が不安定、景気が悪いという現代は投資さえすれば利益が返ってくるという時代ではありません。経済原理だけでコトを進めなくなっている。そんな中であって松山らしい街を新たに創造していくという作業は大変困難な道のりですが、これまでにないオリジナリティあふれる街ができる可能性も大きいのではないかと思います。

そんな街を創っていくために、天野さんは今、具体的にどんなことをしているのですか？

主に商店街で商売をしたり、土地を持ったりしている方たちと直接お会いして街の生い立ちを聞いています。自分のこと、店のこと、お隣のこと、昔のこと、そして、これからのこと。そんな話しをしていく中で次の動きにつながるいろいろな課題も見えています。

松山の街は変わりますか？  
変わるのであれば一体どんな風になるのでしょうか？

街はいろいろな人の集まりで出来ています。だから、すぐには変わらない。変えられない。でも、これまで歩んできた道のりがあって、それを振り返り、確認して、さて、これから、どっちに進んでいくか、みんなで話し合い、共通の想いを創ることが必要です。松山の誇りをもう一度創り直す作業の先に松山の新しい街の姿が見えてくると思います。

大変な作業ですね。ゴールはいつでしょう？

まちづくりに終わりはないので、ゴールなんてない、という話もありますが、それでも5～10年先のことを考えながら、今、動かなければなりません。

まちづくりは進展が見えず苦しい時があります。でも、そんな時に、どこからともなく風が吹き始める瞬間があります。追い風に乗る時もあれば、逆風に散々な目に遭うときもある。でも、風が止まってしまわない限り、それが例え逆風であっても、帆の角度を変えさえすれば斜めに進むことができます。「今、こっちの方角からこんな風が吹いています」という情報をお知らせすることがタウンマネージャーの仕事ですし、私自身もそんな風の一つ、微風ですが、松山の街に吹く風になりたいと思っています。どうぞよろしくをお願いします。

こちらこそ、どうぞよろしくをお願いします。



◀ 黒板に図を示しながら、まち更新の手法を説明する天野さん。参加者と一緒に熱のこもった時間を過ごします。